

地下室の種類

地下室には大きく分けて「半地下タイプ」と「全地下タイプ」の2種類あります。「半地下タイプ」は地面より高い位置に天井がある地下室で、窓を付けることで採光が可能です。「全地下タイプ」は地面より低い位置に天井がある地下室で、断熱性や遮音性により優れています。最近では、地下室の外側を掘り下げ「ドライエリア」という中庭のような空間を設ける場合があります。主に採光や換気など環境改善が目的ですが、避難経路の確保にもなります。

どんな用途で？

全地下タイプは、大きな音を出せる音楽スタジオやシアタールーム、子どもの遊び場などに適しています。大柄な器具を置くスペースが必要なトレーニングルームにも向いています。さらにワインセラーとして使用するのも良いでしょう。但し、ワインは振動や光など環境に非常にデリケートなため、振動をとまなう他用途との兼用は難しいです。居室として使う場合は、「ドライエリア」の設置など、いくつか条件を満たす必要があります。

地下室のメリット

防音性が高い、気温・湿度が安定しているといった趣味に関するメリットのほか、耐震性が高まるというメリットもあります。万が一のなんらかの災害の時は、シェルターとしての機能も。しかし、最近では都市部の住宅事情から、地下室があると法律的に容積率が緩和され、本来の規則の床面積から上限を増やせる、より空間を確保できるという理由で、地下室を検討するというケースも少なくありません。

地下室のデメリット

新築の場合、そもそもその土地が地下室を造るのに適した地盤か、という問題があります。地下室ありきであれば、土地探しからということになります。また、いざ造るとなると、地盤が崩れないよう対策し、重機で穴を掘り、防水工事を行うなど、大規模な工事が通常の建築に加わるため、かなりコストが高くなります。また、地下という特性上、換気・除湿・排水設備が必須で、大雨などの浸水にも事前に対策が必要です。



日本の住宅では

あまり一般的ではありませんが、

マイホームに地下室があれば…

と憧れている方も

多いかもしれません。

自宅内に非日常的な空間。

アイデア次第で夢が広がります。

リフォームなどで後から

設置することは難しいですが、

注文住宅の場合や

あらかじめ備えている

中古物件を見つけた場合、

検討してみてはいかがでしょうか？

今回はみんなの憧れ

「地下室」のお話です。

何歳になっても秘密基地気分？

憧れの地下室